第５学年　国語科学習指導案

日　時　令和4年2月9日(水)5校時
対　象　第5学年1組　33名
授業者　梨岡　和

研究主題
主体的に学び合い、豊かに表現する児童の育成
～適切な言語活動を通した授業改善を目指して～

高学年分科会の目指す児童像
「言葉を吟味し、進んで伝え合い、思いや考えをまとめたり広げたりする児童」

1　単元名　「文章に対する自分の考えを吟味し、学校ブログで発信しよう」
教材名　「想像力のスイッチを入れよう」（光村図書　第５学年）筆者　下村　健一

2　単元の目標と評価規準

（１）単元の目標

・文の中での語句の係り方や語順、文と文の接続の関係、文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。【知－（１）カ】
・事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。【思Ｃ－（１）ア】
・文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめることができる。【思Ｃ－（１）オ】
・文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。【思Ｃ－（１）カ】
・言葉がもつよさを認識するとともに、進んで国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとすることができる。【主】

（２）単元の評価規準

ア　知識・技能	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に学習に取り組む態度
①　文の中での語句の係り方や語順、文と文の接続の関係、文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。【知－（１）カ】	①「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。【思Ｃ－（１）ア】 ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめている。【思Ｃ－（１）オ】 ③　文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。【思Ｃ－（１）カ】	①　進んで既習事項を活かしながら筆者の主張や事例との関係を読み取り、既習事項を生かしながら文章に対する自分の考えを吟味し、ブログで発信することができる。

３　本単元について

（１）　単元観

本単元は、小学校学習指導要領（平成２９年告示）国語編　第５学年及び第６学年に記載されている次のことを扱っている。【学習指導要領から抜粋】

［知識及び技能］
（２）ア　原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。
［思考力、判断力、表現力等］　　Ｃ　読むこと
（１）ア　事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。
オ　文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。
カ　文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。

本単元で児童に身に付けさせたい力は、以下の２つである。

① 事例と意見の関係を文章全体の構成を基に、捉えて文章の要旨を捉える力
② 文章を読んでまとめた考えを共有し、自分の考えを広げる力

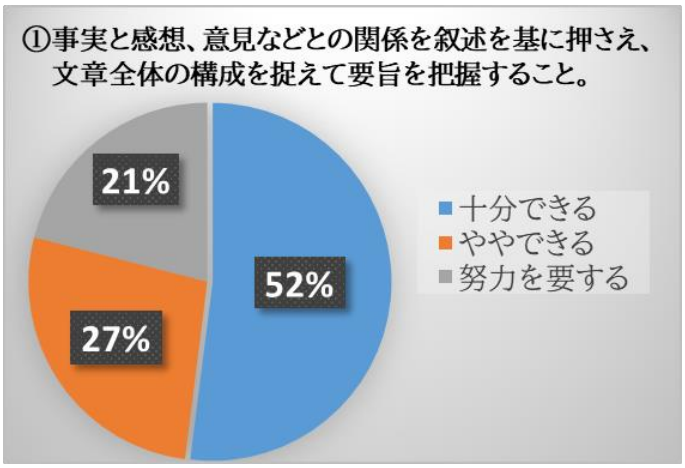
上記を身に付けるために、本単元は、「文章の要旨を捉え、文章に対する自分の考えをブログで発信しよう」という学習課題を立てた。

今年度は、高学年の目指す児童像を達成するために、児童に自分の考えをもたせ、発信することに重点を置いて指導してきた。

自分の考えをもち、発信するためには、筆者の主張を捉えたり主張と事例の関係を文章全体の構成を基に考えたりするなど、文章を正確に読むことが重要である。そこで、自分の考えをブログにまとめる活動を行う。ブログにまとめる活動を通して、正確な情報を扱うために表現する言葉を選んだり筆者の意見をより正確に読み取ったりできると考える。

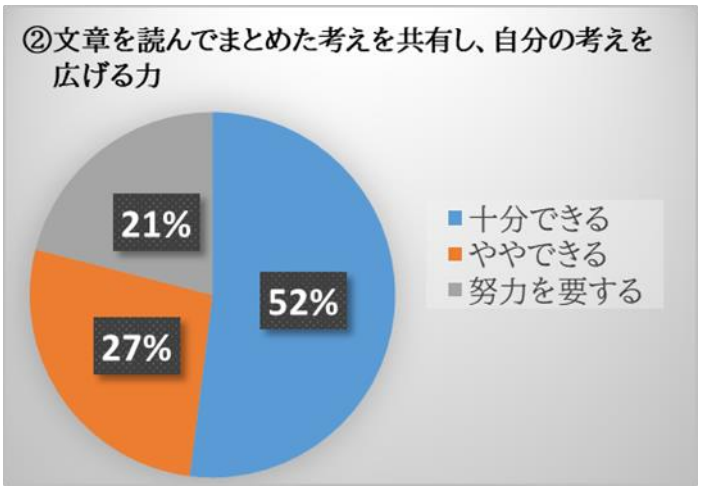
また、９月の単元である「新聞を読もう」の学習をきっかけとし、新聞記事の要旨や要約をし、自分の考えを発信する（ブログやノートで蓄積していく）日常活動を継続してきた。この日常活動として継続してきたブログの情報は正しかったかと自分自身が振り返るきっかけとなる。本単元を進めながら、日常活動も並行して取り組むことで、筆者の主張するメディアとの関わり方を体験しながら読み進めることができると考える。

（２）　児童観



児童の実態を図るために、本単元に関わる既習事項の実態を知るための調査を実施した。（対象者：29 名）本単元で身に付けさせたい力である「要旨を捉える力」は、左記の結果から分かるように、８割以上の児童が身に付けていると言える。これは、５月の「言葉の意味が分かること」の学習で「要旨の極意」（子どもたち自身の言葉で要旨を捉える方法）を創り上げたことや９月の「新聞を読もう」の学習から継続している「要約ノー

ト（日常活動）」の成果である。しかし、言葉を吟味して要約から要旨を選んだり、要旨にどんな言葉を使うか吟味したりする力をさらに伸ばしていきたいと考える。また、苦手とする児童もいる。そこで本単元は、ヒントカードや意図的な対話活動を通して、全員が要旨をまとめられることを目指したい。



「自分の考えをまとめ、広げる力」については、６割弱の児童が、既習事項を身に付けていることが分かる。児童は、「要約ノート」において自分の考えを書くことは、積み重ねてきた。しかし、他者と共有したり対話しながらよりよい文章にしたりする「広げる」ことを苦手としている。今回は、児童が、タブレット端末を活用し、自分の考えを不特定多数の人に読んでもらう経験をする。そのためには、言葉や文章を吟味する必要がある。児童同士で助言し合うことで、よりよい文章になるようにしていくことができると考える。また、苦手な児童においては、教師からモデル文を配布し、モデル文を話型とし、自分の考えを伝えられるようにしていく。

（３）　教材観

本教材は、メディアから発信されている情報を正確に受け止めるために必要な努力について事例を挙げながら考えを述べている。児童にとって身近な事例や比喩を用いながら論を述べている。また、今まで読んできた双括型の構成ではなく、事例から文章が始まる。文章構成にも着目させながら文章を読めるようにしていきたい。そのために、筆者が挙げている論の中で、筆者の考えと事例に分けながら読むことを実践していく。また、筆者が挙げている「想像力のスイッチ」をキーワードにしながら、『』の役割やそのための事例など、全文を読むことで構成を捉えるようにする。

昨年度から一人一台のタブレット端末の導入により多くの情報に触れる機会が増えた。本教材のメディアに対する関わり方については、児童にとって大きな意味をもつ。情報を多く扱う時代には、本教材文を読んで、日常生活の中で、「想像力のスイッチ」を実践していくことは児童にとって必要感をもって関われる教材だと考える。

（４）　学習材の分析

＜想像力のスイッチを入れよう＞双括型

	段落の役割	段落の内容	着目させたい言葉・文
①	話題の例	このように、同じ出来事でも、～発信する内容がずいぶん違ってくる。	～言うだろう。→読者への語り
②		学校のマラソン大会で、あなたが十位だったとしよう。～こう言うだろう。「前回より、五位も下がってしまいました。」しかし、～「でも、三十秒もタイムがちぢまっていますよ。」	
③	例まとめ		このように→前の事柄をまと
④	話題提示	さまざまな手段で世の中の情報を得ている。こうした手段のことを「メディア」というが、～それぞれのメディアは、大事だと思う側面を切り取って、情報を伝えているのである。	「メディア」→重要な話題 ～である→強調
⑤	思い込みの例	例えば、～「円」や「四角形」は、切り取られた情報だけから全体を判断したことによる思いこみということになる。	例えば
⑥	筆者主張	このような思い込みを減らすため、わたしたちは、あたえられた情報を事実の全てだと受け止めるのではなく、頭の中で「想像力のスイッチ」を入れてみることが大切なのである。	「想像力のスイッチ」→題名 ～大切なのである。→強調
⑦	第一スイッチ定義	次のような報道を例に具体的に考えてみよう。～ここでまず大切なのは、結論を急がないことだ。すぐに、「新監督はＡ さんか。」と、決めつけてはいけない。新しい情報を聞けば聞くほど、だんだん多くのことが見えてきて、少しずつ事実の形が分かっていく。まずは、一度落ち着いて、『まだ分からないよね。』と考える習慣をつけよう。	例に具体的に考えてみよう。 ここで、まず大切なのは、 まずは 『まだ分からないよね。』
⑧	第一スイッチ説明		しかし 印象にすぎない可能性 『事実かな、印象かな。』
⑨	第二スイッチ定義	このように、想像力を働かせながら。一つ一つの言葉について、『事実かな、印象かな』と考えてみることが大切である。結局、確かな事実として残るのは、「Ａさんは／うら口から／出ていきました。」ということだけになる。	だから～あられる。 『他の見方もないかな。』 ～である。
⑩	第三スイッチ定義	この表現には、印象が混じっていない。だから、これは事実として。監督就任の有力な情報であるように感じられる。だが、ここで『他の見方もないかな。』と想像してみよう。～他の見方もありうることについて気づけば、この事実もまた、～決め手にはならないのである。	さらに大切なのは 『何がかくれているのかな。』 ～大切なのだ。　結局
⑪			
⑫	第四スイッチ定義	さらに大切なのは、メディアが伝えたことについて冷静に見直すだけでなく、伝えたいことについても想像力を働かせることである。『何かかくれているかな。』とすることも大切だ。	ここに例示した報道は～ しかし、このように～
⑬			
⑭	報道例のまとめ	ここに例示した報道は、架空の話である。しかし、このように、思いこみや推測によってだれかを苦しめたり、だれかが不利益を受けたりすることは、実際に起こりうるのだ。	メディアは、～それぞれに努力が必要なのである。 あなたの努力は、～ ～人間になってほしいのです。
⑮	筆者主張	メディアは、少しでも早く、分かりやすく、情報を伝えようと工夫する中で、時に、思いこみにつながる表現になってしまうことがあるのだ。そんな思いこみを防ぐために、メディア側も、情報を受け取るあなたの側も、それぞれに努力が必要なのである。 あなたの努力は、「想像力のスイッチ」をいれることだ。自分の想像力でかべを破り、大きな景色をながめて判断できる人間になってほしい。	
⑯			

＜教材文の要旨例＞

私たちは、さまざまな手段で世の中の情報を得ている。この手段を「メディア」という。メディアは、少しでも早く、分かりやすく、情報を伝えようとする時に、受け手の思い込みにつながる表現をしてしまうことがある。その思い込みを防ぐために、受け手は、『まだ分からないよね。』『事実かな、印象かな。』『他の見方もないかな。』『何がかくれているかな。』と、いう４つの「想像力のスイッチ」を入れる努力をする必要がある。(199 字)

４　研究主題に迫るための手立て

○　実生活につながる単元課題の設定

本単元では、「文章の要旨を捉え、文章に対する自分の考えをブログで発信しよう」という単元課題を設定した。この学習は、９月の単元である「新聞を読もう」を受けて、継続的に日常活動を続けてきた。ブログとは、「インターネット上で簡単に公開できる日記などのホームページ」（光村教育図書「小学 新国語辞典 改訂版」）のことである。ブログという不特定多数の人に読んでもらうところに書き込むということもあり「正確に読み取らなければならない」「自分の考えを適切に表現しなくてはならない」という学習に対して必要感をもって、学習に取り組めると考えた。

○　ICT 機器の活用と家庭学習への発展

本単元の指導の重点は、「要旨を捉えること」と「自分の考えをもつ」ことである。そのため、本単元の表現する手段として、タブレット端末を活用する。

要旨を捉える段階では、児童に「端的に文章をまとめる」必要性を感じさせるために、「スクールタクト」を使用する。「スクールタクト」は同時に学級全員の考えを共有することができるアプリケーションである。しかし、一人が２枚以上に渡って記入してしまうと、全文を表記できない。そのため、既習事項の要約ではなく、「端的にまとめる」ために要旨を捉える必要があるのである。

また、家庭学習において SNS 型掲示板アプリケーションである「feel note」を活用し、インターネット上に自分の捉えた文章の要旨と自分の考えを掲載する経験を行う。（校外には、発信されない）児童は、校内の不特定多数の人に読んでもらえるように言葉や文章を吟味しながら、自分の考えを表現することが考えられる。

この学習を踏まえ、学習指導要領「内容の取扱いについての配慮事項（２）」を実現するために、家庭学習では本や「子ども新聞」等を読んだことを基に自分の考えを「feel note」上に掲載していく家庭学習を年間を通して取り組んでいく。

○　振り返りの充実

毎時間、学習目標に基づく活動ができたかどうか、振り返る時間を設ける。振り返りの視点として「分かったこと」「次の時間にやりたいこと」の２つを挙げ、自分の学習について振り返る機会を設ける。また、児童が自分の学びを進めようとしている記録や自分の言葉で表現しようとする姿に教師のコメント等で価値付けしたり、児童の振り返りを全体の前で取り上げたりすることで学習の積み重ねを児童が実感できるようになると考える。また、学習に対して児童自身が進められるようにするため、児童の学習状況について、指導・助言を繰り返し、成功体験を味わわせたい。

○　対話活動の充実

（１）　「４つの対話」による意図的な対話活動

「４つの対話（「作品との対話」「教師との対話」「自分自身との対話」「友達との対話」）」を意図的に単元の中に展開していく際に、対話の目的や対話活動における視点を教師側から提示したり教師と児童で考えたりする。目的や視点を明確にすることで、振り返ったときに、児童自身が対話活動後の成果が分かるようにしていきたい。

（２）　学習形態の工夫

教師が意図的にグループ編成や学習形態を設定し、学習を行っていく。グループ編成においては、習熟度を考慮し、学び合いができるように編成していく。また、学習形態では、ペア、グループ、学級全体等が考えられる。また、ICT 機器やシンキングツール等の対話の手段も児童自身が選択できるようにしていきたい。

○　語彙を豊かにするための工夫

日常活動で、語彙を獲得する際に、量を獲得するだけでなく、派生語や類義語、対義語に、言葉を分類する等して獲得できるようにしていきたい。そうすることで、文章中の言葉一つ一つをより吟味して読み取ったり、自分の考えを表現しやすくなったりすることにつなげたい。

５　単元計画と評価計画（全７時間）

次	時	目標	学習内容	◆評価規準【評価方法】 ・留意点☆支援
短時間学習			１　図を見て、意見を交流する。 ２　題名について考えたことを交流したりする。	
１	１	学習課題を把握し、見通しをもちながら、学習計画をたてることができる。	１　説明的文章の既習事項を確認する。 ２　学習目標を確認する。 学習課題を確認し、学習計画を立てよう。 ３　単元の課題を確認する。 文章に対する自分の考えを吟味し、学校ブログで発信しよう。 ４　学習計画を立てる。 ５　「想像力のスイッチ」の数を探す。 ６　全体で共有する。 ７　本時の学習の振り返りをする。	☆既習事項の確認 「要旨、要点」 「構成」 「論の進め方」 ☆要旨に必要な要素の確認 「筆者の主張」 「文章の話題」 「大切な要点」 ・「要約」「要点」との違いを明確にする。 →用途等も確認する。
家庭学習			１　「想像力のスイッチを入れよう」を音読する。 ２　初読の感想を「スクールタクト」に打ち込む。 ３　感想の交流をする。（コメントし合う）	初読の感想の視点： １文章を読んで考えたこと ２疑問点
２	２	文章を読み、筆者の主張や文章構成を捉えることができる。	１　前時の振り返りを共有する。 ２　本時の目標を確認する。 「想像力のスイッチを入れよう」の要旨を捉えよう。 ３　筆者の主張を見付ける。 ４　文章構成を考える。 ５　大切だと思う「想像力のスイッチ」を考える。 ６　本時の振り返りをする。	☆ヒントカードを活用する。 ☆読み取りが十分でない児童：キーワードにサイドラインが引かれた文章を渡す。 ・構成が双括型であることを確認する。

	3	「見立てる」の文章の要旨を捉え、文章に対する自分の考えをまとめることができる。	1　前時の振り返りを共有する。 2　本時の目標を確認する。 「想像力のスイッチ」の役割について考えよう。 3　「想像力のスイッチ」と事例を整理する。 4　役割について、全体で共有する。 5　段落ごとの要点を確認する。 6　本時の振り返りをする。	◆イ－① 「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。 【スクールタクト】
家庭学習			1　「想像力のスイッチを入れよう」の要旨を200字でまとめる。 要旨の捉え方（既習事項） (1)意味段落をまとめる（2)段落の関係を捉える (3)主張が書かれている段落を見付ける (4)主張を見付ける（5)文章をまとめる	☆「スクールタクト」で個別にヒントカードを配布する。
3	4	「想像力のスイッチ」の文章の構成や要点を押さえ、要旨に必要な文章を読み取ることができる。	1　前時の振り返りを共有する。 2　本時の目標を確認する。 要旨を共有し、自分が大切だと思う「想像力のスイッチ」を考えよう。 3　要旨に取り入れる主張や事例の要点を全体共有する。 4　自分の考えの主張を決める。 5　本時の振り返りをする。	◆ア－① 文の中での語句の係り方や語順、文と文の接続の関係、文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。 【ノート】
	5	筆者の文章に対する自分の考えを根拠を挙げながら考えることができる。	1　前時の振り返りを共有する。 2　本時の目標を確認する。 文章に対する自分の考えを明確にしよう。 3　自分の主張に対する事例を考える。 4　自分の考えを「スクールタクト」で文章化する。 5　本時の振り返りをする。	◆イ－② 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめている。 【スクールタクト】
	6 本時	自分が書いた文章を共有し、よりよい文章になるように助言し合い、見直すことができる。	1　前時の振り返りを共有する。 2　本時の目標を確認する。 筆者に対する自分の考えを吟味しよう。 3　ブログを読み合う。(「スクールタクト」) 【読み合う視点】 (2) 主張が分かりやすいか (3) よりよい事例はないか (4) 学習していない人にも伝わるか 4 もう一度、自分の文章を読み直す。 5 本時の振り返りをする。	◆イ-② 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。 ◆ウ－① 進んで既習事項を活かしながら筆者の主張や事例との関係を読み取り、既習事項を生かしながら文章に対する自分の考えを吟味し、ブログで発信することができる。 【スクールタクト】
家庭学習			1　「feel note」に自分のブログを発信する。	

6　本時の展開（6/7）

（1）　ねらい

自分の考えを共有し、自分の考えを吟味しよりよい文章にすることができる。

（2）　本時の展開

時間	学習内容 T 教師の発問 C 予想される児童の反応	・指導事項 ◎豊かな表現を見取る視点	◆評価規準 ☆支援 ・指導上の留意点
導入	1　前時の振り返りを共有する。 2　本時の目標を確認する。 筆者に対する自分の考えを吟味しよう。		・よりよい文章にしていきたいという意思が分かる振り返りを共
展開	3　ブログを読み合う。 （「スクールタクト」） T　読み合う視点を基に、「自分の考え」を共有しましょう。 C　子どもサミットのことを例に入れた方がいいと思うよ。 C　主張は文末を言い切る形にした方がいいんじゃないかな。 C　筆者の主張は入れた方が学習していない人にも伝わるよ。 4 もう一度、自分の文章を読み直す。 T　友達からもらったコメントを基に、もう一度自分の文章を考えてみましょう。	◎スクールタクトのコメント機能を用いて、文章を読み合う。 ◎自分の文章を再度見直す。	・誤字脱字の助言だけにならないように、体験談や表現の工夫、資料の提示の仕方にも気をかけるよう促す。 ・読み合う視点を提示する。 ☆場合によっては、コメントの入れ方を例示する。 【読み合う視点】 ①主張が分かりやすいか ②よりよい事例はないか ③学習していない人にも伝わるか ・机間指導し、個別指導が必要な児童を確認しておく。 ・書き直さないことにも根拠をもつように促す。 ・相手意識をもたせる。 ☆机間指導で、個別指導を行う。
まとめ	5 本時の振り返りをする。		・本時のめあてに正対して書くように促す。（自分の考えに対する変化） ・学習計画を確認しながら、次時への課題を書くように促す。

（3）　授業観察の視点

「スクールタクト」を活用し、文章にコメントをし合うことで、児童は自分の考えを吟味し、よりよい文章を書くことができていたか。（よりよい表現や事例を考えたり自分の考えに自信がもったりすることにつながったか）

（４） 板書計画

想像力のスイッチを入れよう　下村健一

め　筆者に対する自分の意見を吟味しよう。

【読み合う視点】
①主張が分かりやすいか
②よりよい事例はないか
③学習していない人にも伝わるか

【自分の考えを読み直す】
・よりよいコメントを付け足す
・表現を変える
・誤字脱字を直す

共有用スクリーン